

宮崎、小林

災害時に相互支援 ボランティア2団体協定

「絆におけるボランティア支援活動に関する協定書」調印式



災害時の相互支援に関する協定を結んだ小林市SVCセンター（右）とSVCみやざきのメンバー＝14日午前、宮崎市民プラザ

南海トラフ巨大地震や霧島連山・新燃岳の噴火などで、災害ボランティアの活動を必要とする事態に備え、小林、宮崎市のボランティア団体は14日、相互支援活動に関する

協定を結んだ。被災住民への救援活動を円滑に行うことが狙い。

協定を締結したのは、NPO法人・小林市災害ボランティアコーディネートセンター

（小林市SVCセンター）と、災害時救援ボランティアコーディネートタワーみやざき（SVCみやざき）。同じ大淀川流域の団体という縁で、小林側が持ち掛けた。

協定では、災害ボランティアセンターが設置された場合、相互に運営や災害情報の収集、伝達に関して支援する。平常時には、共同して訓練や研修会を行うことも定められた。

宮崎市民プラザで同日あった調印式には、両団体の代表者ら13人が出席。小林市SVCセンターの倉田富夫理事長（77）は「共に勉強していければ」とあいさつ。SVCみやざきの金丸功会長（77）は「災害時は会員も被災している恐れがある。協定締結を契機に、平常時から絆を深めていきたい」と話した。

（竹村麻実）